石川県剣連だより
剣風春秋
第30号
発行
石川県剣道連盟
広報委員会

# ゆーりんピック稽古会

副理事長・ねんりんピック委員会　中村　康徳

石川県羽咋市で開催された全国健康福祉祭・ねんりんピック剣道交流大会から早二年が経ちました。大会では大会参加者はもとより、大会の関係者に感動や勇気、生きがいを与え、あらためて健康に過ごすことの大切さを実感した大会でありました。

石川県剣道交流大会の熱戦

石川県では、高齢者のスポーツや文化活動の大会を一過性のものではなく、継続して高齢者の生きがいを支援していく方向性を打ちだし、今年度より名称を「ゆーりんピック」と変更して取り組んでいくこととしました。

当会は、従来から稽古会を実施し、全国大会には予選会を実施して参加してきたと聞いております。

石川大会の開催が決まり、大会の開催成功に向けては、先催県の例にあるように、選手の強化をし、石川大会の成功を目指しました。その成果としては、平成21年度の札幌大会では団体三位に入賞し、石川大会にはずみをつけることになりました。大会に向けての強化や組織づくりは前理事長枡谷先生が「石川県剣連だより」に既に寄稿されておられますので省かせていただきます。

石川大会後、大反省会・祝勝会を開催し、その余韻に浸り、平成23年度の熊本大会でも優秀な成績をあげることや県剣連の行事予定表にも稽古日を入れてもらうことなどが話題となり、継続して取り組んでいくことになりました。

全国大会は、昭和63年に兵庫県で第一回大会が行われ、その後は各都道府県の持ち回りで開催されてきており、熊本の後は、高知、栃木、山口と順に開催される予定になっています。

大会は団体戦のみが行われています。その参加者基準には男女の区分はなく、年齢層の区分と共に「二年連続の出場はできない。但し、開催県と前後の開催県は除く」とあります。従って、熊本大会には連続して出場できる選手もありました。

石川大会後の平成23年度の石川県予選会は熊本を目指したおおぜいの剣友が参加しました。特に、65歳以上の部と70歳以上の部では白熱の戦いが展開されました。予選の結果から選出された石川県選手団は定例の稽古会と一回の合宿を経て熊本大会に臨み、予選を勝ち抜き、決勝トーナメントに進出しました。京都市に惜敗したものの、前年の頑張りを引き継ぐこととなり「石川は頑張っている。」と示すことができ、満足して帰県しました。

70歳以上の部　決勝戦

ゆーりん稽古会の会員は県内59歳以上、86歳までの高齢者37名が登録されており、北は輪島市から、南は加賀市までおられます。一部、会員のいない郡市があり残念です。県連全各支部からの参加を願っています。

稽古会は県内一円から集まってこられるため、冬季間は除いての稽古会としています。毎回二十名台の参加により実施しています。

会員の中には熊本大会を休んで次の宮城大会を目指すと公言されておられる方もありました。しかしながら、24年度宮城県石巻市で開催される予定でしたが、未曽有の大震災を被られたため、開催を返上されたので、出場の機会はなく、25年度の高知大会を目指す会員が増えることが予想されます。

稽古会は午前10時より入念なストレッチングを含めた準備運動から始り、約30分の基本練習、その後に休憩し、回り稽古、最後に打ち込みをやって終っています。大会前には打ち込みの量を増やしたり、試合稽古もします。皆さんいたって弱音を吐かないで頑張っています。

稽古会での稽古以外の楽しみの一つに稽古前や休憩時間の剣道談義や近況報告は話題が豊富です。水分補給をしながらですが、花が咲いています。そして、昼までには家路につかれています。

会の参加には、特段に年齢・段位は問いません。健康維持・増進、交剣知愛の精神を持ち続けたい方の参加を望んでいます。

# 剣道八段に合格して
## ～不格好な竹刀に～

安江　正紀

昨年11月の剣道八段審査において合格させていただきました。本当に有り難うございました。

長きにわたりご指導を賜りました諸先生方を始め、共に汗を流した同輩・後輩の皆様方のお陰と深く感謝しております。

「剣道八段に合格して」とのお題を頂戴し、今、改めて想いますのは、私が剣道と出会った頃の事であります。

ここに1枚の古びた写真があります。日の光を真っ正面から浴びて眩しそうな目をした少年の写真です。彼は白刺し子の稽古着と紺の袴をはいて左手にしっかりと竹刀を握りしめています。でも、この竹刀が柄の長さとそこから先の長さがさほど変わらない本当にバランスの悪い不格好な竹刀なのです。

お察しの通りこれが剣道を始めたばかりの小学校2年生の私です。竹刀のご説明は後ほど。

さて、当時私が通っていた小学校は金沢市東部の山沿いにあり、小学校と中学校が同じ敷地内にある本当に小さな小さな学校でした。

人生の大半を戦争に翻弄され身体を壊した失意の父が、その後に興した事業にも失敗し、この学校の校務士としての職を得、母と共に移り住んだこの地で私は生まれました。

水を湛えて光る田んぼ、犀川の清流、祭りの太鼓、豪雪に包まれた山々。この地には移り変わる四季を喜ぶ色と音と香りが満ち溢れておりました。

この大自然の中でまるで猿の子の様に育った我が儘放題の私は、この地で初めて剣道と出会うこととなりました。

当時の犀川中学校は小規模校ながらも剣道の強豪校としてその名を県下に轟かせており、県下大会の常連で北陸三県大会にも優勝した事もある有名校でした。そして、この剣道部を指導していらっしゃったのが堀田留吉先生（故人）でした。

先ほどお話ししたあの不格好な竹刀は、中学生の稽古を毎日毎日体育館の高窓から覗いていた私に、堀田先生が「まあちゃん（私）。剣道してみるか」と言って、その場で中学生用の竹刀を先端から数寸切って特別に作ってくれたもので、私にとっては、世界に一本のとても大切な宝刀だったのです。

これからの私はこの竹刀を「武士の魂」と崇め、何故だか面金の赤色にドキドキ興奮し、防具の汗と藍の入り交じった香りをクンクン嗅いでは陶酔する奇妙な小学生となりました。

戦時中には戦闘機に乗り、幾度も修羅場を乗り越えられたという先生の教えは、質実剛健の姿の中にも温かい慈愛が満ち溢れており、実技に限らず武士の心構えや作法、刀法に至るまでとても含蓄のある内容で、毎日が時代を超えて行き来するタイムマシンに乗っている様なワクワクするものでした。

この先生との出会いのご縁が私と剣道を結びつけ、今思えば私の人生をも決定付けるものとなりました。

私達剣道部員が中学校を卒業する時の謝恩会で堀田先生は、「君達は剣道という素晴らしい道を歩んでいる。立ち止まって休んでも良い。回り道をしても良い。でも、ずっとこの道を歩み続けなさい。必ず良かったと思える時が来るからね。絶対に辞めたら駄目だぞ」と言って送り出してくれました。

あれから三十数年。高校、大学と何度も何度も剣道から逃げ出しそうになりました。警察官という職を得てからも、「何でこんな苦しい事をいつまでも続けているのか。仕事だけしていればいいじゃないか」と呪縛の様に憾んだこともありました。

しかし、今、私が、「八段に合格して」という言葉に続けるとしたら、「八段に合格して本当に嬉しいです。剣道を続けてきて本当に良かったと思います。これからも初めてあの不格好な竹刀を握った時の感動を忘れず、この道を歩み続けます。本当に有り難うございました」と申し上げたいと思います。

# ジュニア強化事業

横井　隆明

石川県剣道連盟では、平成二十四年度の新たな事業の一環として小学生を対象としたジュニア強化事業を実施することとしております。

本事業の主眼は、「生涯剣道につながる基本」の実践による剣道人の育成を目指すものであり、全剣連発行の「剣道指導要領」に準じた剣道指導を図り、基本動作を中心に習得させ、修練を重ねる中で理にかなった対人的技能の向上をねらいとしています。

強化対象者と錬成回数でありますが、各郡市より選出されました小学四年生から六年生までの男女七十一名で、本年四月十四日の初回開講式を含め、毎月一回、土曜日の開催で計六回を予定しております。

次に本事業におけるスタッフですが、県剣連強化委員会のジュニア強化グループとして位置づけ、強化委員五名、強化指導員五名、合計十名で構成しています。また、実際の指導についてはジュニアの強化委員及び指導員はもちろんですが、山下和廣強化委員長をはじめ、各教室の先生方も多く参加いただいており、たくさんの眼で子供たちを指導していただいております。現在、半分の回数が終了しておりますが、全体の雰囲気もぎこちない感が大分取れ、子供たちには自分の教室以外の友達ができたようで、大変楽しくしている姿を多く見かけるようになりました。

現在、県内には約七十程度の剣道教室が存在しますが、その多くは単一の活動による錬成会、練習試合等を行っているのが現状です。しかし、今回のジュニア強化事業の発足にあたり、県内ジュニア指導員が一同に会して、金沢市内で意見交換会を開催し、深夜まで「未来の剣士」について熱く語り合い、今までにはなかった結束感が醸成され、大変良い機会であったと思っております。

また、今回のジュニア強化が契機となり、県連強化とは別にジュニアが主導する錬成会を開催させていただき、さらなる技術向上を目指し、今後も年間を通した活動を行っていきたいと考えております。

私観ではありますが、子供たちの躍動する姿に、いつも感動と勇気をいただき、また、自己の研鑽に大いに勉強させられている日々を過ごしております。

今後も微力ではありますが、力の限り、ジュニア強化の発展に務めてまいりたいと思います。

「すべては、子ども達の笑顔のために」

# 「中堅剣士講習会」に参加して

畠　洋介

今年度、五月一六日から二〇日にかけて奈良市中央武道場で行われました全日本剣道連盟主催「中堅剣士講習会」に参加させていただきました。このような機会を与えていただきました関係各位の皆様に心から感謝申し上げます。

この講習会は「各都道府県の中核となる四〇～五〇歳までの中堅剣士の錬成強化を主目的として」行われ、過去に参加された諸先輩方からは「足腰を鍛えていけ」、「軽い竹刀を持って行け」、「怪我しないで帰ってこい」という言葉をかけられました。内心、「中高生じゃあるまいし、そんなひどいことなんて…」と思う反面、「途中でリタイアなんてみじめだなぁ」と本気で憂鬱にもなりながら奈良へ向かいました。

初日は開講式の後、松永政美副会長の講話が行われました。松永副会長ご自身の体験として、剣道を続けてきた中で良かったことは「日本人として日本とは何かが少しわかった」ことだとおっしゃっていました。また、「技術が上がると昇段する。昇段したなら日本の文化を学べ」という言葉も述べておられました。そのときには漠然としたことしか考えませんでしたが、しかし、この講習会の途中からようやくこの言葉の意味がわかり始めました。それは、この講習会の達成目標であり、私たち講習生に体得してほしいことを述べておられたのだとわかりました。

さて、ここからが「ありえない」世界でした。毎日の稽古は四回行われ、稽古前の素振りからが大変でした。何種類かの素振りは百本単位。特に初日の素振りでは、どこからか途中で足かお尻がぶたれているような音が聞こえてくるのです。急に身が引き締まるような思いになりました。特に、股割素振りはこたえました（泣きそうになりました…）。講師の先生方から実技講習当初言われていた「初心に返れ」、「指導者自らが学び直せ」という言葉どおり、素振りについて考え直しました。素振りは「剣道修練の基本」、「準備運動でない」であり、剣道を学び始めた少年のころを思い出しました。実技では切り返し、打ち込みに時間を割き、毎日講師の先生方を交えた回り稽古がありました。区分稽古もあり、一本も気の抜けない稽古ばかりでした。講習会二日目には手首、アキレス腱、太もも、ふくらはぎにサポーターをつけた講習生が増え、さながら忍者のようでした。体育館や宿舎の階段を手すりに寄りかかりながら行き来し、「アイタターッ」が口癖になってしまいました。体力が限界になってきた中日の午後、福本修二専務理事が来られました。いかにも不満そうに素振りを眺め、講習生の前で「厳しさが足りない」と講師の先生方に檄を飛ばしていました。しかし、そのころの私たちは、何を言われようがこれ以上頑張りようがない状態だったので「殺したきゃ、殺せ」といった心境で、何を言われても無反応になっていました。そのとき、学生時代に鬼のような先輩に死ぬ気でかかっていったころを思い出しました。このような気持ちこそ忘れていた大切なものではなかったか、どこかに自分の剣道に線を引いていなかったか…四〇代の今、ふと自分の心の汚れに気づきました。すると、ここへ来てまでやっていたごまかすような稽古、見栄っ張りな稽古を心から恥じ、真剣に相手の方と向き合って稽古しようという気持ちになれました。同部屋となり剣友となった方々も同じような心境だったのでしょう。取るに足らない稽古中の話に花が咲き、毎晩の反省会がたまらなく楽しかったです。疲れ果て、徹夜明けのような妙なハイテンションも思い出です。

ともあれ、ヘトヘトになりながらも乗り切ることができました。帰途、松永副会長の言葉がふと蘇りました。「日本がわかった」、「日本の文化を学べ」とはこういうことだったのか…純粋な心を忘れず、いくつになっても道を求めていくことこそが、剣道を学び日本の文化を学ぶことではないでしょうか。最後に、軽く流してほしいのですがちょっぴり思ったのが、「来年もまた行こうかな…」でした。（いや、やっぱりやめときます…）

# 合格体験記

## 剣道人生50年を振り返って

橋本　孝司

私が剣道を始めたのは、今からちょうど50年前、野々市中学校に入学してからです。それから、新設二年目の錦丘高校と六年間、中学時代は故山崎秀夫先生、高校時代は押田弘光先生に教えを請いました。その間は、さしたる戦績もありませんが、唯一今も記憶に残っているのが、高三の時のインターハイ予選決勝で羽咋工業に大逆転負けを喫した事ぐらいです。高三になる頃から、余り剣道に身が入らず、大学四年間、社会人四年間ぐらいは全く剣道とは無縁の生活でした。帰郷後、サラリーマン時代、運動不足解消のために、何となく再開したのがきっかけとなり、ましてやそれが、生活の糧となるとは…人生とは分からないものです。二十代後半のサラリーマン時代、今後の人生を色々と模索している時、高校時代の友人寺内先生のアドバイスもあり、三十代で脱サラ、武道具店を始め現在に至っております。

三十代は全てに我武者羅でした。運良く三十八才の時に、六段に合格し、その後考える所がありしばらく受験せずにきました。五十五才でそろそろ受験してみようかなと思った矢先、稽古中に足がもつれて引っ繰り返り、次の日病院でＭＲＩを撮った結果、頸椎ヘルニアと診断され、このままだと首から下が達磨さん状態になると言われ手術、術後約三年、稽古をしない日々を過ごしました。風の便りに、金沢中署の朝稽古会の話を聞き、参加させて頂き、当初はただ楽しく稽古をしておりましたが、昨年八月金沢で七段審査が行われたのをきっかけに、今度はとことんやってみようと思い、十一月の名古屋、今年四月の京都と受験し、幸いにも合格出来ました。今、思い起こすと、私の人生、色んな人と出会い、御支援を受け、特に警察署の朝稽古会の皆様との出会がなければ、今の私はないと心の底から感謝しています。今も手足の痺れ、下半身のふらつきという後遺症はありますが、一病息災と言う言葉の様に、これからも身体の許す限り、楽しく稽古が続けて行けたらなあと思っている今日この頃です。今後共、皆様方の御指導、御鞭撻よろしく御願い申し上げます。

## 剣道六段を目指して

小池田　満

会場に到着してから五時間。いよいよ面をつける時がやってきた。

面をつけ、正座して立ち合いを待っている間、面紐が緩んでいる気がして何度も縛りなおした。不安のまま椅子席に座る。気持ちを落ち着かせるため目を閉じ、そしてゆっくり目を開けた時、自分の持っている竹刀に目が行った。近藤先生から審査用にいただいた竹刀であった。じっと竹刀を見つめ、そして座ったまま大きく深呼吸をした。泣いても笑ってもこの二分。そう思うと気持ちが落ち着いてきた。自分の番だ。椅子から立ち上がり、もう一度深呼吸。竹刀を持つ左手に力を込め歩きだす。礼をして蹲踞。「イヤー！」体育館中に自分の声が響く。立ち上がった時から相手の目もしっかり見えている。今までの審査と違い自分が落ち着いているのがわかる。

数呼吸後、こちらの動きに対して相手が出てくる、気がした。思い切って面に打って出る。完全に相手の面に乗った。しっかり抜け、振り返って構え直す。それから面、出小手、抜き胴と一本も打たれないまま「止め」の声。後は審査員の先生方に自分の剣道への姿勢を評価していただくだけだった。

朝六時二十分から週三回、職場の道場で面をつけて近藤先生と二人で切り返しからの基本稽古。そして立ち会い練習。約三十分の稽古の後、七時には着替えて自分の席で職務を開始する。自分の転勤まで近藤先生との朝稽古は続いた。「毎日面をつけることが大切だ、そして努力すれば剣道の神様に愛される。」近藤先生はよくおっしゃられ、そしてそれを実行されていた。私も近藤先生の勢いに背中を押され、毎日とはいかないが、できるだけ面をつけるようにした。

今回の六段合格には近藤先生を始めとし、武道館の先生方に本当にお世話になり感謝しております。一刀から二刀に変えた時点で六段への昇段はあきらめておりましたが、一刀の基本から教え直していただき、近藤先生の背中を見て剣道修行の素晴らしさを改めて感じ、後を追いかけ、ついに三度目の挑戦で剣道の神様に愛されました。これからも剣道の素晴らしさを次の世代に伝えられるよう精進してまいります。

## 【全国大会等記録（1～6月）】

**◎第34回全国スポーツ少年団剣道交流大会**
3月25(日)～27日(火)
甲府市小瀬スポーツ公園武道館
小学生団体戦ベスト16
宇ノ気剣道教室
中学生個人(男子) ベスト16
喜多　亮介(森本中)
中学生個人(女子) 予選
小村奈緒子(宇ノ気中)

**◎第21回全国高校選抜剣道大会**
3月27(火)・28日(水)
愛知県春日井市総合体育館
男子予選リーグJ組
金沢桜丘　①―0小　山(栃木)
金沢桜丘　①―0八幡工(滋賀)
男子決勝トーナメント一回戦
鹿児島商　②(本数)2金沢桜丘
女子予選リーグB組
埼玉栄(埼玉)　③―0　羽　咋
三重総合(大分)　③―1　羽　咋

**◎第60回全日本都道府県対抗剣道優勝大会**
4月29日(祝)　大阪市中央体育館
1回戦
**石　川　2(本数)②　香　川**
(先)　西川　―メ　葛西
土谷　メ―　宮田
佐藤　×　山畑
(中)　田畑　×　石川
小松　×　松本
塩野　メ―　柳
(大)　本橋　―メメ桑原

**◎第17回新化旗争奪全国中学校選抜剣道大会**
5月3・4日　河北台健民体育館
男子団体優勝　高松中学校
決勝　高松中③―1逆井中(千葉)
3位　宇ノ気中学校
3位決定戦
宇ノ気中③―2浜松中部中

**◎第22回若獅子旗争奪中学選抜剣道白山大会**
5月12(土)・13日(日)
白山市松任総合運動公園体育館
男子団体ベスト8　宇ノ気中学校
女子団体3位　鹿西中学校
ベスト8　宇ノ気中学校
男子個人3位
下池　真平(高松中)
ベスト8
喜多　亮介(森本中)
女子個人3位
小村奈緒子(宇ノ気中)

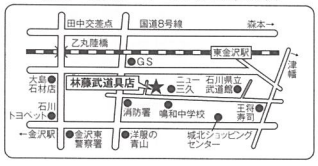
**◎全国各流居合道さくらんぼ大会**
6月24日(日)　山形県
六段の部3位
作田　剛也(県武)

**◎北陸三県少年剣道錬成大会**
3月4日(日)　南砺市福野体育館
小学生低学年の部　①野々市
②辰口
③能美
小学生高学年の部　②大聖寺
③新化館
中学生の部　③川北
①高松
②新化館

**◎第50回北信越高校体育大会**
6月16(土)・17日(日)
新潟市東総合スポーツセンター
男子団体2位　羽咋　3位　桜丘
準決勝　羽咋(代表)　桜丘
決勝　新潟商③―0羽咋
女子団体3位　星稜
準決勝　新潟商③―0星稜

## 審査会合格者

剣道　七段
橋本　孝司　川本　盛光
剣道　六段
四柳　友一　本田　剛志
小池田　満　竹田　洋之
鳥越　隆志　二塚　良一
居合道　七段
ビットマン　ハイコ

林藤武道具店
〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp
●定休日／月曜日
〔営業品目〕
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
（刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります）


武道具のハシモト
KIRI BRAND
金沢市上荒屋7丁目67　TEL249-8233
〒921-8065　FAX249-9139